

ラスクと焼きドーナツ

まちづくり目指し 野菜スイーツ完成

【当別】町が北海道医療大と連携して開発した、野菜スイーツの試作品を発表するセミナーが、ふれあい倉庫(錦町)で開かれた。会場にはラスクと焼きドーナツが披露目され、参加した町民約50人が試食した。町は昨年と同大と連携したまちづくりに着手しており、今回のスイー

当別町と道医療大が連携

ツ開発もその取り組みの一環。同大の研究者や学生、同大OBが設立したNPO法人ゆうゆうなどの協力を得て、トマトやカボチャなど全7種類を使った野菜ラスクと、アスパラの焼きドーナツを約2カ月かけて完成させた。ラスクはトマトの赤やブルーベリーの紫など、彩りにもこだわった

発表セミナーで試作品披露

ほか、焼きドーナツには米粉を使用し、もちもちした食感を出した。

9日に開かれたセミナーでは、同大准教授による食物の栄養と健康についての講演や参加者の意見交換も行われた。町内蔵岱で農業を営む安栄芳枝さん(59)はラスクを試食し、「もつと味が濃い方が、それぞれの野菜のインパクトが出ると思う」と期待を寄せていた。町などは今後、同日の参加者アンケートの結果も踏まえ、商品化を目指す。(森田靖子通信員)



完成した野菜スイーツの試作品を試食する参加者